

society&business Tokyo25 journal 25 journal

執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

病気によって目が不自由になるハンディキヤップを背負いながら、ボサノバやジャズの演奏活動に取り組み富山市出身の歌手、田代つかささんが10月19日、イチローさんの気まぐれカフェ(羽村市羽西、042・579・7878)で「Revised Bo

リバーサイドでボサノバを きまぐれカフェ・ライブ第一弾

「ssa Nova」コンサートを開催する。田代さんは、ボサノバを中心にジャズ、ポップス、クラシックなど多彩な楽曲を弾き語り演奏している。当日は遊歩堂フレンズが共演。アンニュイで優しい爽やかな歌声を聞く人の心に届ける。同カフェを営むイチローさんは「人生初の推し活。そしてきまぐれカフェ・ライブ第一弾となるもの。多くの人に田代さんの音楽を聞いてほしい」と来場を呼びかける。14時開場、15時開演。チケットは2000円(飲食メニューワンオーダー以上必要)。申し込みは同カフェ店頭、電話で受け付ける。ほか、遊歩堂珈琲(小平市小川町)でも扱う。



神主の講話と玉堂の特別解説



厳かに佇む武蔵御嶽神社

御岳登山鉄道がツアー参加者募集

御岳登山鉄道(青梅市御岳、0428・78・8111)が10月29日、「武蔵御嶽神社神主の講話と川合玉堂とゆかりのある方が解説する玉堂美術館鑑賞ツアー」を開催する。御岳山と御岳溪谷の2つのエリアで芸術

の秋を楽しむ。ツアーでは、往復参加者専用臨時ケーブルカーに乘車、ガイドがコース行程を案内、神主の金井格さんによる武蔵御嶽神社の由緒ある講話、「御岳山荘」で宿坊料理を味わう昼食、玉堂美術館で川合

玉堂の血縁者の案内で日本画を鑑賞するという特別なものを用意した。当日はケーブルカー滝本駅に8時50分に集合。御岳山御師集落内を解説付きで散策し、神主の金井格氏の講話を聞く。昼食後、下山し、玉堂美術館着で館内解説を聞き、自由鑑賞。15時30分ごろ解散する。参加費は8000円。募集人数は20人程度。参加はメールで事前申し込みが必要。10月7日締め切り。応募者多数の場合は抽選。雨天決行(荒天中止)。

1位奪還に向け 応援をよろしく

「温泉総選挙美肌部門」 秋川溪谷瀬音の湯

全国の温泉地が名乗りを上げる「温泉総選挙2024」で、あきる野市の秋川溪谷瀬音の湯が「美肌部門」にエントリー。2019、20、22年の3回、同部門で1位に輝いており、昨年は2位。今年は1位を奪還を目指す。

美肌部門は、美肌効

果があるといわれる温泉が対象。福井県のあわら温泉、北海道のぬかびら源泉郷などがエントリーしている。秋川溪谷瀬音の湯は、指折りのアルカリ性泉質が自慢。ややぬめりがあり、美肌効果が見込めるそう。女性客を中心に支持を得ている。また、四季折々



秋川溪谷瀬音の湯は指折りのアルカリ性泉質が自慢

の自然を感じながら、露天風呂や内風呂を楽しめるため、多くの人に愛されている。8月9日からインターネットや全国各地の温泉地で投票が始まり今は折り返し地点。9月18日現在は1位。同

2016年から実施。温泉や旅行に関わる人々による「旅して日本プロジェクト」の主催で、環境省など5省庁が後援している。絶景部門や名湯・秘湯部門など8部門で競っている。投票は11月1日まで。

「TOKYO JAPAN米粉パンを食べよう！」と連動



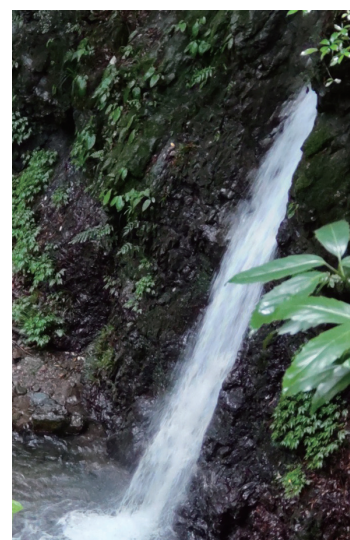
「米粉のビーフカレー」が9月3日、米粉ブースを新設した。米粉の活用を後押しする東京都が2022年から展開するキャンペーン「TOKYO JAPAN米粉パンを食べよう！」と連動したもので、期間中、さまざまな米粉商品をキヤンペーン価格で販売する。

米不足などで価格が上昇しているが、企業や自治体は米消費が進むレシピを開発して情報発信したり、米粉パンなどの商品をアピールしたりしている。米を積極的に楽しむ「米活」が、官民の間で広がっている。米粉ブースは食品売り場の棚に設け、米粉のカレー、米粉のビーフカレー、米粉のパン、白玉粉などの新商品も含め10種類ほどを並べる。市倉俊哉センター長は「小麦粉が高騰する中、米粉を見直す動きがある。さまざまな米粉商品を知ってもらい、親しむきっかけを」と呼びかける。営業時間は9時〜17時。11月30日まで。

もって米粉に親しんで 五日市ファーマーズセンターに米粉ブース新設

JAあきがわ五日市ファーマーズセンター(あきる野市高日、米粉ブースを新設した。米粉の活用を後押しする東京都が2022年から展開するキャンペーン「TOKYO JAPAN米粉パンを食べよう！」と連動したもので、期間中、さまざまな米粉商品をキヤンペーン価格で販売する。

10月12日と14日 参加者募集 幾代会と吉川英治記念館共催 知る人ぞ知る一の滝も



「米活」が、官民の間で広がっている。米粉ブースは食品売り場の棚に設け、米粉のカレー、米粉のビーフカレー、米粉のパン、白玉粉などの新商品も含め10種類ほどを並べる。市倉俊哉センター長は「小麦粉が高騰する中、米粉を見直す動きがある。さまざまな米粉商品を知ってもらい、親しむきっかけを」と呼びかける。営業時間は9時〜17時。11月30日まで。

「吉川英治が愛した吉野梅郷をめぐる」ツアー(9477)が共催する。多摩川に架かる奥多摩橋を渡り不動明王、愛宕神社、一の滝II写真II、即清寺、吉川英治記念館を巡る。歩行距離は4キロほど。過ごした吉野梅郷を散策する。各日定員30人で参加者を募る。中でも一の滝は高さ10メートルだが、2022年に市が歩道を整備し、南口に9時30分に集

「吉川英治が愛した吉野梅郷をめぐる」ツアー

徐々に癒やしのスポットとして知られるようになった。参加費は1000円(ガイド料・入館料・保険料含む)、雨具持参、動きやすい服装で。申し込みは9月18日から同記念館で電話で受け付ける。幾代会は、植物観察を通して自然に親しみ、地域の環境づくりに取り組むほか、ガイドツアーも実施するボランティア団体。2007年に梅の公園のガイドボランティアの有志3人で立ち上げた。